平成２９年度「若手教員等研究支援費（若手教員等支援枠）」研究成果報告書

研究課題	日本人高校生の英語名詞句把握の縦断的研究	
氏名 臼倉　美里	所属 人文社会科学系 英語科教育学分野	職名 講師

CITI Japan 研究倫理 e-ラーニングプログラムの受講　☑・←受講済の場合はチェックをすること

【研究成果の概要】　（文字の大きさ９ポイント・字数 800 字～1600 字程度）

本研究では，日本の高校生の主語位置における名詞句構造の習得を調べるために，Koukousei Billy's テスト(KB テスト)を作成した。KB テストの問題は，名詞句構造の処理の難易度によって，大きく 3 つのグループに分類される。Group 1 は前置修飾で，【This + 名詞】と【Which + 名詞】の 2 種類の名詞句構造を含む。Group 2 は，後置修飾句のうち，【前置詞句】と【現在分詞】に焦点を当てた。Group 3 は，後置修飾節を含むもので，【関係代名詞・主格】と【関係代名詞・目的格】を取り上げた。将来の縦断的調査のために KB Test の等質なフォームを複数作成することも本研究の目的の一つであったため，ターゲット項目は全く同じで，語彙のみを少し変えた 3 種類のテストフォームを作成し，調査に用いた。具体的には，Form A は 86 名，Form B は 95 名，Form C は 97 名を対象に実施した。正答率およびエラーパターンはフォーム間でほぼ同じであったため，以下，3 種類のフォームをあわせた結果を報告する。この 1 年の研究期間内に KB テストを用いて 2 つの調査を実施した。

調査 1 では，高校生 278 名を対象に KB テストを実施した。その結果，全体の正答率は，50%に満たなかった。また，テスト項目の信頼性係数(クロンバックα)は.87 (Form A), .88 (Form B).87 (Form C)であった。平均解答時間は，23.14 (SD = 5.97) 分であった。今回は高校 2 年生を対象に 3 学期末に KB テストを実施したが，高校生の後半でも，名詞句構造の把握能力は十分ではないことが読み取れる。また，Group 1(前置修飾句)，Group 2(後置修飾句)，Group 3 (後置修飾節)の 3 つの異なる難易度の階層性があることが示唆された。更に，文法的な処理ができていないことによる典型的なエラーパターン（中間言語体系）も明らかにされた。そして，名詞句構造は把握できているようだが，その英文の意味を理解できていない学習者も一部いることが分かった。

調査 2 では，KB テストを改訂して追調査を実施した。改訂のポイントとして，調査 1 で使用した KB テストに，過去分詞を使った後置修飾を含む名詞句と，関係代名詞 who/whom を含む名詞句を追加することにした。高校生 42 名を対象として，改良版 KB テストを実施した結果，平均正答率は 44.82% (SD = 14.52%)で，調査 1(M = 47.37%)とほぼ同程度であった。テスト全体の 65 問における信頼性係数(クロンバックα)は，.87 で内的一貫性は十分に高かった。なお，問題グループ別に信頼性係数を計算しても，内的一貫性は保証された(Group 1 = .77, Group 2 = .88, Group 3 = .74)。平均解答時間は，15.62 (SD = 3.23) 分であった。また，名詞句の種類によって，名詞句構造把握はどう変わるかを調べた結果，Group 間に差が見られた(Group1 (前置修飾)62.74%(SD=18.19),Group2 (後置修飾・句)51.43%(SD=25.91),Group3 (後置修飾・節)20.29%(SD=14.77))。また，調査 1 の KB テストと共通する問題(名詞句構造)においては，エラーパターンの種類と頻度は，調査 2 でもほぼ同じ傾向が見られた。特筆すべきこととしては，関係代名詞の直前に動詞を挿入してしまうエラーパターンの頻度が，関係代名詞の種類によって異なることがわかった。この結果は，関係代名詞を含む名詞句構造の習得状況が，関係代名詞の種類によって異なり得ることを示唆しており，この点についてはさらに調査する必要がある。

本研究で扱った名詞句構造は中学校で導入され，高校でも引き続き扱われている言語事項であるが，名詞句の境界を把握することは多くの高校生にとって容易ではないことが本研究の結果から明らかになった。今回は，縦断的研究の 1 年目として，横断的な調査によって名詞句構造の把握能力を調べたが，今後は，同一協力者を対象に KB テストを複数年実施し，名詞句構造の習得プロセスの経年変化を明らかにしていく。

【研究成果発表方法】

＜学会口頭発表＞

関東甲信越英語教育学会第４１回新潟研究大会

「高校生の名詞句境界把握に関するパイロット調査－Koukousei Billy’s (KB) Test の開発

（共同発表：鈴木祐一，臼倉美里）

＜論文＞（投稿中）

日本の高校生の英語名詞句構造の把握能力―Koukousei Billy’s (KB)テストの開発―

（共同執筆：鈴木祐一，臼倉美里）

※発表論文名（口頭発表を含む），氏名，学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて，報告書（冊子等）を作成した場合には，本様式とともに 1 部を提出すること。

なお，提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。